

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300506		
法人名	有限会社 ホワイト介護		
事業所名	グループホーム 北さんち		
所在地	三重県鈴鹿市中旭が丘四丁目6番8号		
自己評価作成日	平成 22年 11月 8日	評価結果市町提出日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300506&SCD=320□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22年 11月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分の生き方は自分で決める」という自己決定に基づいた自律支援を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関の看板には「北さん家」と書かれ家を「ち」と読み替える親しみやすい名称の事業所である。統括施設長の介護の理念をもとに、平成22年11月より移動で替わられた新しい管理者を中心に熱心に介護に取り組んでいる様子が感じられる。隣接する中学校の通用門の前に位置し、いつも子供達の様子がみられる場所にある。利用者はその様子をみて元気をもらっている。また、利用者は身体、薬物、言葉の拘束のないケアを受け自由な家庭生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けていくために、利用者本位であるということの大切さを掲げ、「自分の生き方は自分で決める」という自己決定に基づいた自律支援を行うことを理念とし、その実践に向けて日々努力している。	「自分の生き方は自分で決める」という理念を職員全員が共有し実践につなげている。統括施設長の研修会が年間計画の中にあり、よく研修をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、朝夕や散歩時の挨拶などは気軽に交わっているが、日常的な交流は少ない。	自治会に加入していて回覧板もまわってくる。保育園の運動会に参加したり、中学校の体験教室を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として認知症に関する講演活動や研修を行い、認知症に対する理解を得られるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員さんや利用者の家族を交え、利用者の現状やサービス状況の報告を行い、それぞれの意見を聞き、サービス向上のため、できることから取り組んでいくようにしている。	家族、包括支援センター職員、民生委員等の参加で年6回開催され、現状報告や家族からの意見、情報提供などをあり円滑な運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、お互いに分からないことなど気軽に相談し合いながら協力関係を築くようにしている。	市担当者とは管理者変更届け等について、相談、連絡を取り合っている。統括施設長は県や市の講演依頼を受けたりして、協力関係はよい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、基本理念にもあるように、あらゆる拘束からの解放にむけて全力で取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間の防犯上の施錠以外は一切行っていない。	身体、薬物、言葉の拘束をしない研修を受け、日ごろから職員は取り組んでいる。玄関のカギ、2階の居室につながる階段にも柵はなく開放的な環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、日常のミーティングや会議などで、虐待に関することなどを話し合い、常に虐待のないよう職員相互で注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度については理解しているが、職員全体の理解までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用者及び家族に十分な説明を行い、不安や疑問点があれば尋ね、納得が得られてから締結している。解約、改定の際も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していることに加え、運営推進会議で意見を聞いたりしている。又、日常から利用者や家族には「困ったことはないですか？」などと声かけをし、意見や要望を聞きだせるよう取り組んでいる。	面会時に要望等がないか尋ねたり、定期的 に手紙で、現状報告を行い意見の言える環境 づくりをしている。家族より皮膚疾患の対 応について要望があり、職員間で話し合っ て反映したこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案があればいつでも聞き、会議などで検討し、実践に反映できるよう努力している。	職員用の申し送りノートがあり、連絡事項や 意見を書き、管理者は個人的に対応したり、 ミーティングで話し合っている。対応できない 場合は月1回の管理者会議に提案し、結果 報告をして反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境については、資格取得への奨励を行うなどして、職員個々のスキルアップに貢献できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は勿論のこと、外部研修にも参加し、研修報告を提出させ、伝達講習を行い全員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス連絡協議会に加盟し、研修会等を通じて意見交換を積極的に行っている。又、鈴鹿亀山地区の同業者らと、年に1度の作品展を共同で開催し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人の希望や不安なことを聞き、安心して入居できるよう努めている。又、入居するまでに、併設のデイサービスや体験入所などを利用してもらいながら、職員との信頼関係を構築するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族の希望や不安なことを聞き、入居者のことを家族と共に考えながら、信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に訪れた際、現在の状況や本人及び家族の意見等を良く聞き、他のサービス利用が適切と思われたときには、本人や家族とよく話し合いをするようにし、他のサービス利用への提言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の有する能力に応じ、職員と共に家事を行うことで、お互いに協力しながら共に生活しているという認識をもつようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連絡をよく取るようにし、状況報告を行い、本人に対するアドバイスなどをもらいながら共に本人を支えあえる関係を構築できるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人への面会を呼び掛けるようにしている。	家族の面会が比較的多くあるが、友人等なじみの人の面会はないので、地域・知人に呼びかけをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で仲の善し悪しが出てくると思うが、職員が共通の話題を提供したりして、極力一人で孤立することのないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された家族の中には、ボランティアとして協力していただいている方もみえて、関係を継続できるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや会議の場に於いて、本人の思いや希望、意向について検討し、介護サービス計画に反映している。	興味のある話をする等で自分から思いを言ったり、職員が把握できる環境づくりをしている。職員は申し送りノートを持ちその都度メモにし、現状を常に共有できるようにして把握に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を詳しく聞きとるようにし、フェイスシートに記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、日々の過ごし方をよく観察し、個別記録や業務日誌に記録して現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の意見をよく聞き、職員全員でモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成できるよう努力している。	グループホーム日誌は夜間、昼間を色別で記録し、受診記録表も詳細に記入され、それらをもとに計画書をチェックし全職員が直接意見を書き込む。その後計画作成者が再度作成し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は常に利用者に寄り添いながら支援する中で、気づいたことやケアの実践・結果を個別記録や業務日誌に記入して、職員全員が目を通し、申し送り等で報告をし、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り柔軟な支援ができるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園と定期的に交流を行い、お互いに訪問し合いながら協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を最優先し、できる限り入居前からのかかりつけ医のもとで受診ができるよう支援している。	かかりつけ医を優先にしているので全員がかかりつけ医にて受診している。家族の通院介助で行っているが、送迎介助の支援をする利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職は配置していないが、併設のデイサービスの看護師やかかりつけ医の看護師に相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、医師や看護師、ケースワーカー等とよく相談し、早期治療、早期退院ができるように病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に本人及び家族より希望を聞きくようにしている。又、看取りを希望される場合は、かかりつけ医と連携し、最後まで支援できるようにしている。	統括施設長による看取りの研修会を行い、職員は支援の在り方について共有している。看取りの指針についても家族と話し合いを重ね、安心して終末期をむかえるように取り組んでいる。	入居時から時間が経つと本人、家族の意向も変わってくるので話し合いを重ねて方針の統一をはかってほしい。事業所側の体制も変化があるので職員も安心して支援ができる環境づくりをお願いする。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急方法の実技講習等は、適時全職員を対象に行い、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者及び職員は、避難訓練を実施して、避難できる方法を身につけるようにしているが、夜を想定した避難訓練は行っていないため、今後実施するようにしたい。又、地域との協力体制については、地域の自主防災倉庫の鍵の保管場所として協力している。	年2回の避難訓練を実施している。地域の水防倉庫の鍵を事業所で預かっているが地域との協力体制ができていない。避難場所は隣の中学校に指定されている。	折角水防倉庫の鍵をあずかっているのだから地域住民の協力をお願いして、訓練への参加を呼び掛けてほしい。夜間想定避難訓練もぜひお願いする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応は基本的なことであり、全職員は常にこの事を念頭におき対応している。	人格を尊重し敬語を使うなど注意をし対応している。事務所には全国グループホーム協会の発行した「グループホーム利用者の権利」が書かれた掲示物があり、全職員が確認し支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自分の生き方は自分で決める」という自律支援が基本理念であり、常に自己決定ができるような言葉かけや対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日をどう過ごしたいかを聞き、決して強制することなく、希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットボランティアや本人の希望する美容室へ行き整髪を行っている。又、季節に応じたお洒落な服装の選定やお化粧を本人と相談しながら行い、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、食事の準備や味付け、後片付け等を職員と共に行っている。又、翌日の夕食のメニューを利用者の皆さんと相談し決めている。	食材の皮むきなどの準備や、下膳、茶碗拭きなど出来る利用者が職員と一緒にしている。夕食だけは利用者と相談してメニューを決めるのも楽しみの一つである。庭の野菜を収穫しみんなでいただいたりする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量等は毎食後記録している。又、本人のその日の状態や嗜好を考慮し、メニューを変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕と歯磨き(入れ歯の手入れ)を職員と共に行い、口腔状態が清潔に保たれるよう支援している。又、毎日、口腔体操を実施し、口腔状態の良化を図っている。尚、定期的に歯科医師及び歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	毎日の個人記録から排尿、排便のパターンを把握し、それにより誘導や見守りの支援をおこなう。1日でも長くトイレでの自立支援を可能にできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足になりがちを、ラジオ体操や散歩等してもらうよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、本人の意思を確認しているが、現在、全員の利用者が入浴介助（見守りも含めて）が必要な為、入浴時間を決めて支援せざるをえない状況である。	15時30分から17時の間に自由に入浴している。見守り、介助、リフトでの入浴でリラックスされて夕食の時間となっている。入浴、清拭を組み合わせて3日ごとで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の意思により居室で休息されたり、リビングで皆と過ごされたりして、自由な休息ができるよう支援している。又、安眠できないときは職員が寄り添い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員は、利用者一人ひとりの服薬状況について理解しており、服薬の確認及び症状の確認も常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた楽しみ事を毎日提供することは難しいと思うが、できる限り支援していけるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買い物に出かけたり、花見や外食、催物見学等行い支援している。又、年に一度、家族も参加して日帰り旅行を実施している。	一人ひとりの希望に沿っての外出は、重度化により出来ないが、日曜日に買い物や近くの喫茶店にでかけたり、運動会や花見、家族旅行など家族と協力して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを十分理解し、金銭管理能力に応じて所持や使用の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話したり手紙のやり取りができるよう、希望があれば職員が支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないよう、照明、温度等の調節を適時行っている。又、季節の花や作品をテーブルに飾り、心地よく過ごせるように工夫している。又、食堂兼リビングには暖炉が配置してあり、冬になると薪を焚いて暖をとる。	暖炉とピアノのある食堂兼居間は吹き抜けの明るく落ち着いた空間である。壁面には写真や共同作品を飾り、居心地よくしてある。2階へは、階段が2か所とエレベーターが設置され、廊下も手すりをつけ安全への配慮がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの状況に応じた居場所が設定してあり、希望に応じてその場で思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族とよく相談し、本人が普段から使っているものなどを持ち込んでもらっている。基本的に火の出るもの以外は、持ち込みに制限はない。	2階の居室は入り口と洗面所が2人共用であり、そこからドアで居室となる。押入れや棚が作りつけであり、広く明るい部屋である。ベッド、テレビ、タンスなど思い思いのものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の各所に手すりを取り付け、安全に歩行ができるよう配慮している。又、本人の部屋やトイレにはよくわかるような表示がしてあり、混乱のないように工夫している。		